

公開セミナー(3ヶ月で目指すITパスポート合格術)

1. 試験体系 <情報処理技術者試験>経済産業省が実施する国家試験

L4	高度な知識・技能	高度(ブローイングショナル)試験			
		ITストラテジスト試験	システムアーキテクト試験	データベース	プロジェクトマネジメント試験
L3	応用知識・技能	ネットワーク	データベース	システムアーキテクト試験	システム監視技術者試験
		システムアーキテクト試験	データベース	システム監視技術者試験	システム監視技術者試験
L2	基本知識・技能	基本情報技術者試験(ITE)			
L1	基礎知識・技能	ITパスポート試験(IP)			

2. 試験の対象者

職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識をもち、情報技術に携わる業務に就くか、担当業務に対して情報技術を活用していくこととする者

3. 試験日・試験時間・出題形式・出題数

試験日	試験時間	出題形式	出題数
春(4月第3日曜日)	9:30~12:15	四択択一	88問(小問)+3問(中問)×4
秋(10月第3日曜日)	(165分)		=100問

4. 配点・合格基準

配点	基準点
1,000点満点	総合得点:満点の60% 分野別得点:分野別満点の30%

5. 応募者数・受験者数・合格率

	応募者数	受験者数	合格者数	合格率
H21 春期	46,845	39,131	28,540	72.9%
H21 秋期	71,856	61,313	31,080	50.7%

6. その他

- (1) 経済産業大臣により合格証書が交付。合格証書には、総合得点・分野別得点を記載。
- (2) 試験合格の有効期間は、インターネット申込みでは、独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)のホームページから、平成22年1月12(火)10時~2月17日(水)20時、願書郵送申込みでは、平成22年1月12(火)~2月8日(月)消印有効受験料は5,100円。

7. 学習内容

分野	大分類	小分類	学習時間の目安
システム系 (戦略)	企業と法務	①企業活動 ②法務	5時間
	経営戦略	③経営戦略マネジメント ④技術戦略マネジメント ⑤ビジネスインダストリ	2.5時間
	システム戦略	⑥システム戦略 ⑦システム企画 ⑧システム開発技術 ⑨ソフトウェア開発管理技術	3.5時間
	マネジメント系 (管理)	⑩プロジェクトマネジメント ⑪サービスマネジメント ⑫システム監査	1.5時間
	基礎理論	⑬基礎理論 ⑭アルゴリズムとプログラミング	3時間
	コンピュータシステム	⑮コンピュータ構成要素 ⑯システム構成要素 ⑰ソフトウェア ⑱ハードウェア	3.5時間
	技術要素	⑲ヒューマンインタフェース ⑳マルチメディア ㉑データベース ㉒ネットワーク ㉓セキュリティ	2.5時間
	出題比率 40%		5時間
	合計	30時間	

<ストラテジ系>

- ①組織形態、品質管理技法(QC 七つ道具)、財務会計(財務諸表)、管理会計(損益分析) ②知的財産権(著作権、特許、商標、労働法(派遣と請負) ③PPM(Products Portfolio Management) ⑤ECとEDI ⑥BPR(Business Process Reengineering) ⑦RFP(Request For Proposal)

<マネジメント系>

- ⑧開発モデル(ウォーターフォールモデルとプロトタイプモデル)、DFD(Data Flow Diagram)、テスト、運用(バックアップ) ⑩PERT ⑪サービスデスク ⑫内部統制制
- <テクノロジ系>
- ⑬2進数 ⑭プログラミング言語、マークアップ言語 ⑮五大装置 ⑯クライアント・サーバシステム、稼働率 ⑰OS、文字コード、表計算ソフト ⑱ペリコ ⑲GUI ⑳データベース ㉑関係データベース ㉒インターネット、LAN、WAN ㉓暗号化技術、認証技術、コンピュータウイルス

8. 過去問題の例

<ストラテジ系>

問 経営組織のうち、事業部制組織はどれか。(①からの出題)

ア 社内組織を小集団に分け、全体を構成する一部の機能として相互作用的に活動させる。
イ 商品企画、購買、製造、営業といった同じ機能を行う単位で、社内組織を分割する。
ウ 製品や市場ごとに社内組織を分割し、利益責任単位として権限と目標が与えられる。
エ 二つの異なる組織体系に社員が所属することによって、必要に応じて業務に柔軟に対処する。

問 知的財産権のうち、権利の発生のために申請や登録の手続きを必要としないものはどれか。(②からの出題)

ア 意匠権 イ 実用新案権 ウ 著作権 エ 特許権

問 フロダクトポートフォリオマネジメントでは、縦軸に市場成長率、横軸に市場占有率をとったマトリックス図を四つの象限に区分し、製品の市場における位置付けを分析して資源配分を検討する。四つの象限のうち、市場成長率は低い、市場占有率を高く保っている製品の位置付けはどれか。(③からの出題)

ア 金のなる木 イ 花形製品 ウ 負け犬 エ 問題児

<マネジメント系>

問 ソフトウェア開発プロセスを“要件定義”、“システム設計”、“プログラミング”、“テスト”の各工程に区切って、この順に進める手法の長所はどれか。(⑧からの出題)

ア 開発工程のどの時点でも、ソフトウェアの仕様変更に対応できる。
イ 開発の進捗状況の把握が容易である。
ウ 上流工程におけるレビューの工数が少なくて済む。
エ 利用者が、開発の早い時期にソフトウェアを試用できる。

問 入力と出力だけに着目して様々な入力に対して仕様書どおりの出力が得られるかどうかを確認していく、システムの内部構造とは無関係に外部から見た機能について検証するテスト方法はどれか。(③からの出題)

ア 運用テスト イ 結合テスト ウ プラックボックステスト エ ホワイトボックステスト

<テクノロジ系>

問 2 台の処理装置からなるシステムがある。両方の処理装置が正常に稼働しないとシステムは稼働しない。処理装置の稼働率がいずれも 0.90 であるときのシステムの稼働率は幾らか。ここで、0.90 の稼働率とは、不定期に発生する故障の発生によって運転時間の 10%は停止し、残りの 90%は正常に稼働することを表す。2 台の処理装置の故障には因果関係はないものとする。(⑥からの出題)

ア 0.81 イ 0.90 ウ 0.95 エ 0.99

問 PC 間で電子メールを送受信する場合に、それぞれの PC とメールサーバとのやり取りで利用される通信プロトコルに関する記述のうち、適切なものはどれか。(②からの出題)

ア PC から送信するときは POP が利用され、受信するときは SMTP が利用される。
イ PC から送信するときは SMTP が利用され、受信するときは POP が利用される。
ウ PC から送信するときも、受信するときも、ともに POP が利用される。
エ PC から送信するときも、受信するときも、ともに SMTP が利用される。

問 暗号化に関する記述のうち、適切なものはどれか。(②からの出題)

ア 暗号文を平文に戻すことをリセットという。
イ 共通鍵暗号方式では、暗号文と共通鍵を同時に送信する。
ウ 公開鍵暗号方式では、暗号化のための鍵と平文に戻すための鍵が異なる。
エ 電子署名には、共通鍵暗号方式が使われる。

(1) 教材

ポイント集、本試験問題、(テキスト、分野別問題集)

(2) 学習スケジュール…(学習期間の目安:3ヶ月)

1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	4/18
ストラテジ系 マネジメント系	テクノロジー系	本試験問題集 公開模試 (TAC模試3/14)	本試験
ポイント集 (デキスト・分野別問題集)		本試験問題 模擬試験	

参考

●TAC教室講座(速習生)

[基本講義] 2.5時間×6回＝15時間

【公開模試／公開模試解説】 5時間+2.5時間=7.5時間

[講義時間合計] 22.5時間

【学習時間合計】 22.5 時間×2=45 時間

●使用教材

- ・超速ポイント集
- ・試験対策テキスト
- ・問題集…本試験問題集／試験対策問題集(分野別)
- ・模擬試験…公開模試

(3) 學習方法

- ・大分類ごとに、ポイント集で重要ポイントを学習(インプット)→問題集で演習(アウトプット)を繰り返す

- ・ポイント集で用語を定着させる
- ・本試験問題の「中間」を解いて、**中間対策**を行う
- ・計算問題の「パターン」をつかむ
- ・模擬試験などを利用して、**165分**で**100問**を解く練習をする
- ・表計算・データベースは、初級シニアドほど深堀りなくてよい

＜参考＞平成21年秋期本試験 中間B

商品の販売データの分析に関する次の記述を読んで、問93～96に答えよ。

N社の営業部では、今年度の販路戦略立案に向けて、前年度の商品売上実績を売上総利益率、商品回転率及び売上構成比率の視点で分析することにした。ここで、商品回転率は、一定期間の売上高を平均在庫高で割った値である。

分析には表計算ソフトを用いることとし、前年度の売上に関する資料を基に図のようなワークシートを作成した。ここで、列I、列Jの計算式は、セルA2~H11の範囲を、列Bをキーとして降順に整列した後に入力する。

	B	C	D	E	F	G	H	I	J
商品名	売上高 (千円)	売上 原価 (千円)	売上 総利益 (千円)	売上 総利益率 (%)	平均 仕入値 (千円)	商品 回転率 (回)	売上 構成比率 (%)	売上構成 比率累計 (%)	ランク
商品a	1,730			30.8	120	14.4	14.8		
商品b	410			28.4	50	8.2	3.5		
商品c	2,630			22.7	220	12.0	22.5		
商品d	3,360			30.7	364	9.2	28.8		
商品e	310			26.2	29	10.7	2.7		
商品f	210			21.0	30	7.0	1.8		
商品g	860			28.5	97	8.9	7.4		
商品h	610			28.2	40	15.3	5.2		
商品i	300			18.7	35	8.5	2.6		
商品j	1,260			22.1	90	14.0	10.8		
合計	11,690								

注 糊掛けの部分は、表示していない。

図 商品別販売分析ワークシート

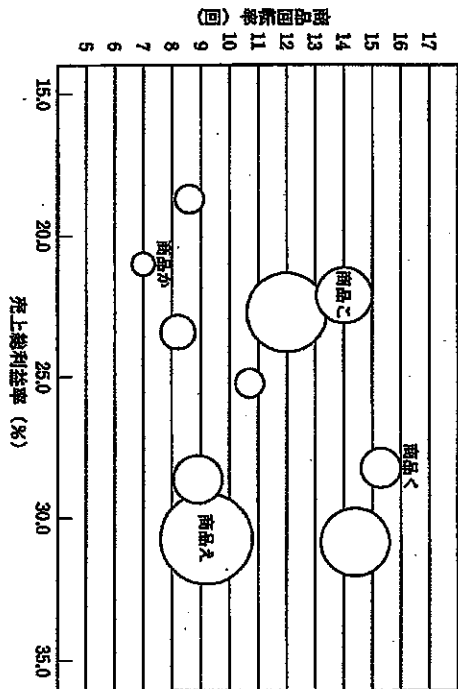
【ストラテジ】

問93 図のセル E2 に入力されている計算式として適切なものはどれか。ここで、計算式では百分率の処理や端数処理を行わず、セルの表示形式でパーセント表示をしている。

7	C2/B2	1	D2/B2
7	D12/B12*B2	1	D2/D12

【ストラテジ】

問94 売上の分析に当たっては、売上総利益率と商品回転率がともに高い商品が、販売効率が良い利益の上がる良い商品と判断される。そこで、販売効率を示す指標と売上高を視覚的に確認するために、各商品の売上高、売上総利益率及び商品回転率の関係を次の図のようなバブルチャートにして表した。この図を分析した内容として、適切なものはどれか。



- ア “商品エ” は、薄利多売で利益を上げている商品であり、利益を維持するためには品切れが起らないよう商品管理に注意する必要がある。
- イ “商品カ” は、売上高は少ないが販売効率が良いので、現状維持でよい。
- ウ “商品イ” は、売上高は多いが、余分な在庫が少なく、利益が大きいので、売上を増やす工夫をすれば効率よく利益の増加が図れる。
- エ “商品ア” は、販売数量は少ないが価格の高い高級商品であり、幅広い顧客層を維持するためには大切な商品である。

【ストラテジ】

問95 N社では、売上構成比率を基準に商品をランク分けし、ランクに応じた仕入、販売管理の重点化を図っている。次の条件に従い、図の商品別販売分析ワークシートを用いて商品のランクを求めるとき、セルJ2に入力する計算式はどれか。

【条件】

- セルA2～H11の範囲を、列Bをキーとして降順に整列する。
- セルJ2に、セルH2の値を複写する計算式を入力する。
- セルJ3に、計算式J2+H3を入力し、セルJ4～J11に複写する。
- ランク分けの基準は、表のとおりである。

ランク	売上構成比率累計による区分
A	上位70%以内に入る商品
B	ランクAではないが上位90%以内に入る商品
C	ランクA、ランクB以外の商品

- ア $IF(Q2 \leq 0.7; A; IF(Q2 \leq 0.9; B; C))$
- イ $IF(Q2 \leq 0.9; C; IF(Q2 \leq 0.7; A; B))$
- ウ $IF(Q2 \geq 0.7; A; IF(Q2 \geq 0.9; B; C))$
- エ $IF(Q2 \geq 0.9; C; IF(Q2 \geq 0.7; A; B))$

【ストラテジ】

問96 今年度の販売戦略立案に当たり、売上構成比率を売上上位の商品から順に累計した売上構成比率累計が70%以内で、商品回転率が10回以下の商品抽出し、商品回転率の改善を図る重点商品としたい。対象となる商品は何品目あるか。

- ア 1 イ 2 ウ 3 エ 4